連結財務諸表（要約版）

連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 平成28年3月31日現在	当連結会計年度 平成29年3月31日現在
資産の部		
流動資産	32,521	**42,754**
固定資産	38,684	**34,271**
有形固定資産	23,688	**22,744**
無形固定資産	905	**729**
投資その他の資産	14,089	**10,797**
資産合計	71,205	**77,025**
負債の部		
流動負債	8,360	**8,207**
固定負債	3,277	**3,461**
負債合計	11,638	**11,669**
純資産の部		
株主資本	56,249	**61,920**
その他の包括利益累計額	3,001	**3,085**
非支配株主持分	316	**350**
純資産合計	59,567	**65,356**
負債純資産合計	71,205	**77,025**

（注）記載金額は、百万円未満を切捨てによって表示しています。

連結損益計算書

（単位：百万円）

	前連結会計年度 自 平成27年4月 1日 至 平成28年3月31日	当連結会計年度 自 平成28年4月 1日 至 平成29年3月31日
売上高	46,404	**48,803**
売上原価	30,953	**31,493**
売上総利益	15,450	**17,309**
販売費及び一般管理費	6,614	**7,036**
営業利益	8,836	**10,273**
営業外収益	849	**421**
営業外費用	604	**114**
経常利益	9,081	**10,579**
特別利益	123	**350**
特別損失	15	**16**
税金等調整前当期純利益	9,188	**10,914**
法人税、住民税及び事業税	2,799	**3,326**
法人税等調整額	357	**△ 64**
当期純利益	6,031	**7,651**
非支配株主に帰属する当期純利益	92	**66**
親会社株主に帰属する当期純利益	5,939	**7,585**

（注）記載金額は、百万円未満を切捨てによって表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前連結会計年度 自 平成27年4月 1日 至 平成28年3月31日	当連結会計年度 自 平成28年4月 1日 至 平成29年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,715	**7,805**
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,357	**△ 1,711**
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,294	**△ 2,340**
現金及び現金同等物に係る換算差額	465	**309**
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	529	**4,062**
現金及び現金同等物の期首残高	12,955	**13,484**
現金及び現金同等物の期末残高	13,484	**17,547**

（注）記載金額は、百万円未満を切捨てによって表示しています。

連結株主資本等変動計算書（当連結会計年度 自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当連結会計年度期首残高	7,095	7,840	43,388	△ 2,074	56,249	2,177	993	△ 169	3,001	316	59,567
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△ 1,909		△ 1,909						△ 1,909
親会社株主に帰属する当期純利益			7,585		7,585						7,585
自己株式の取得				△ 5	△ 5						△ 5
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						882	△ 857	59	84	34	118
連結会計年度中の変動額合計	—	—	5,675	△ 5	5,670	882	△ 857	59	84	34	5,788
当連結会計年度期末残高	7,095	7,840	49,064	△ 2,079	61,920	3,060	135	△ 110	3,085	350	65,356

（注）記載金額は、百万円未満を切捨てによって表示しています。

会社／投資家情報

会社概要

（平成29年6月23日現在）

- 商　号　アリアケジャパン株式会社（ARIAKE JAPAN Co., Ltd.）
- 代表者　代表取締役社長　田川 智樹
代表取締役副社長　岩城 勝利
- 創　業　昭和41年6月2日
- 資本金　7,095,096千円
- 従業員数　465名（平成29年3月31日現在）
- 事業内容
  1. 天然調味料の製造、加工及び販売
  2. 農畜産物の生産、加工、輸出入及び販売
  3. 水産物の加工、輸出入及び販売
  4. 医薬部外品の製造、輸出入及び販売
  5. 飲食店の経営
  6. 前各号に関連する技術指導業務
  7. 前各号に附帯する一切の事業
- 取引銀行　株式会社三井住友銀行
株式会社三菱東京UFJ銀行
株式会社十八銀行
- 関連会社
  - ARIAKE U.S.A., Inc.
  - 青島有明食品有限公司
  - 台湾有明食品股份有限公司
  - F.P.Natural Ingredients S.A.S.
  - Ariake Europe N.V.
  - Henningsen Nederland B.V.
  - PT. Ariake Europe Indonesia
  - 株式会社ディア・スープ
  - 株式会社エー・シー・シー
  - アリアケファーム株式会社
- 所在地
  - 本社
〒150-0022
東京都渋谷区恵比寿南 三丁目2番17号
電話 03-3791-3301（代表）
  - 九州工場
・第1工場
・第2工場
・中央研究所R&Dセンター
・パックセンター
  - 名古屋支店
  - 大阪支店
  - 福岡支店
  - 仙台支店
  - 札幌営業所
  - 北陸営業所

本社ビル

株式の状況

（平成29年3月31日現在）

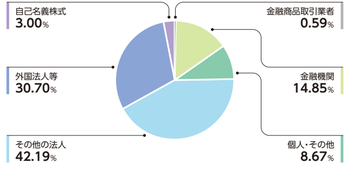
- 発行可能株式総数……130,000,000 株
- 発行済株式の総数……32,808,683 株
- 株主数……9,574 名
- 上場証券取引所……東京
- 証券コード番号……2815

大株主（上位10名）

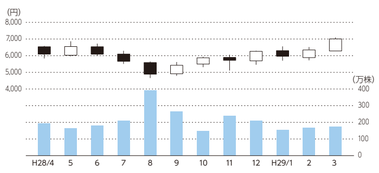
株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
ジャパンフードビジネス株式会社	10,608	33.34
公益財団法人岡田甲子男記念奨学財団	2,196	6.90
JPMC OPPENHEIMER JASDEC LENDING ACCOUNT	1,610	5.06
GOLDMAN, SACHS & CO.REG	1,524	4.79
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	1,372	4.31
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,276	4.01
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	896	2.82
株式会社王将フードサービス	784	2.46
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	561	1.76
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE MONDRIAN INTERNATIONAL SMALL CAP EQUITY FUND, L.P.	453	1.43

※1.当社は自己株式を985千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2.持株比率は自己株式を控除して計算しております。
3.持株数は、千株未満を切捨てによって表示しております。

所有者別株式数構成比率



株価（月足）／出来高推移



株主メモ

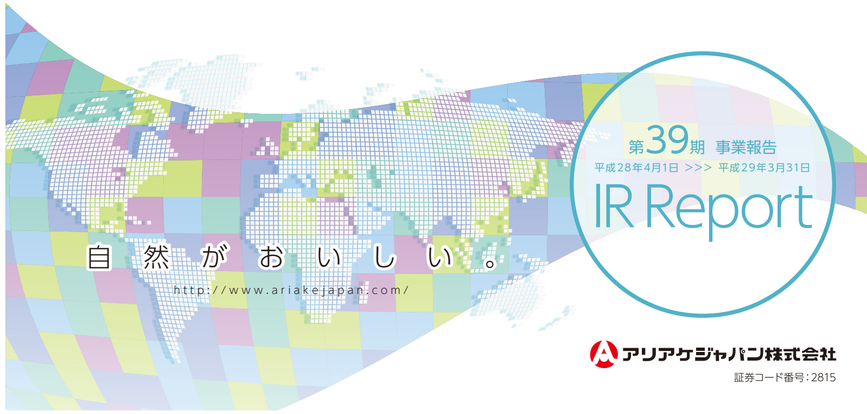
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当基準日	3月31日
第2四半期配当基準日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	公告URL http://www.ariakejapan.com/

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっています。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）では お取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっていますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

アリアケジャパン株式会社

UD FONT　VEGETABLE OIL INK　FSC ミックス 責任ある木質原材を配合した紙 FSC® C017219



第39期 事業報告
平成28年4月1日 >>> 平成29年3月31日
IR Report

アリアケジャパン株式会社

証券コード番号：2815

株主の皆様へ

独自のビジネスモデルで培った強みをグローバルに発揮して海外事業が着実に進展し、売上・利益ともに過去最高を更新。「世界8極体制」により、一層の成長を目指します。

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。第39期「IR Report」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社グループは昨年3月のインドネシアの新会社設立により「世界8極体制」を構築しているグローバルエンタープライズとして、また、天然調味料におけるリーディングカンパニーとして顧客ニーズを先取りし、全世界の既存事業の拡充と、新規事業の積極的な展開を図りつつ、「食の安全」「健康」「おいしさ」を追求してきました。

国内では外食・中食・加工食品向けの調味料販売が堅調で、海外事業も着実に成長を遂げました。米国で既存食品加工会社からの受注増、中国で既存食品加工会社と外食からの受注増、台湾で既存外食からの受注増により、売上が伸長しました。欧州でも拡販に成功し、利益の黒字化を実現しました。その結果、当連結会計年度における連結業績は、売上、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が、過去最高を更新し、8期連続増収増益となりました。

この成長の原動力は、天然調味料市場を早期に開拓したパイオニアとして構築した独自のビジネスモデルです。これにより、高品質な製品を確実・大量に製造する能力、高レベルな品質・衛生管理などの強みを培い、その強みを世界最適地生産によりグローバルに発揮しています。

今後も、国内では食の個食化の進展により外食・中食・加工食品業界からの需要増加、海外でも健康志向をベースとした日本食の浸透など、良好な市場環境が見込めますが、強みをベースに成長戦略を加速していきます。台湾では本年1月より新工場が稼働し、本年9月には東南アジア初の生産拠点であるインドネシア工場が完成予定で、来年初頭には稼働予定です。また、欧州でも生産設備の更新で事業拡大に努めます。

当社グループは、中長期的に連結売上高1,000億円の企業グループとなることを目指しています。それに向けて、「世界8極体制」による成長の追求とともに、国内外の工場において品質・衛生管理を強化・徹底し、安心・安全な食の提供に努め、企業価値の持続的な向上を目指していきます。

株主の皆様に対しましては、日頃のご支援ご鞭撻に感謝するとともに、今後のさらなるご愛顧を祈念して、1株当たりの年間配当金は60円とさせていただきます。

なお、株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、より多くの株主様に当社株式を保有いただくことを目的として、株主優待制度を導入することといたしました。本年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された1,000株以上を保有する株主様を対象として開始いたします。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

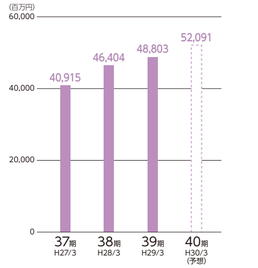
特別相談役
岡田　甲子男

代表取締役社長
田川　智樹

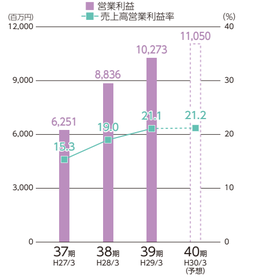
営業の概況（連結）

連結決算のポイント　売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、8期連続増収増益となりました。

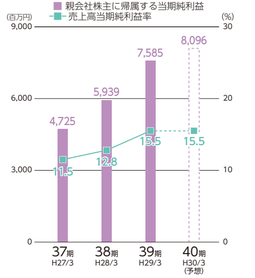
売上高



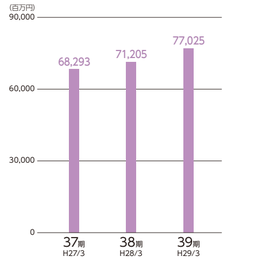
営業利益／売上高営業利益率



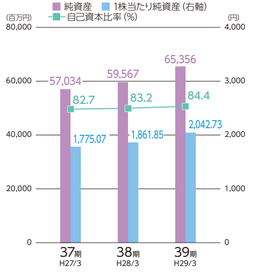
親会社株主に帰属する当期純利益／売上高当期純利益率



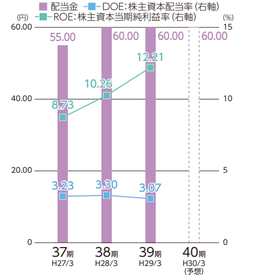
総資産



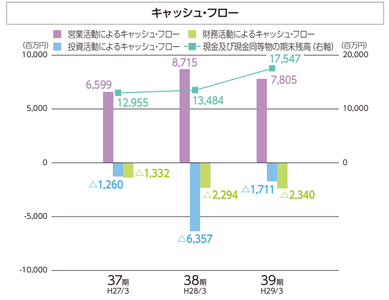
純資産／1株当たり純資産／自己資本比率



配当金／DOE／ROE



キャッシュ・フロー



連結売上高は、顧客第一の姿勢を貫いて拡販に努め、海外子会社の売上も伸長し、前期比2,398百万円(5.2%)増の48,803百万円となり、8期連続の増収を達成し、過去最高を更新しました。

連結営業利益は、売上高増加に伴う営業利益の増加が大きく貢献し、円安による原材料費の増加、製造原価の固定費増加などを吸収し、前期比1,436百万円(16.3%)増の10,273百万円となりました。

連結経常利益は、前期比1,498百万円(16.5%)増の10,579百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比1,646百万円(27.7%)増の7,585百万円となりました。

各利益項目とも8期連続の増益を達成し、過去最高を更新しました。

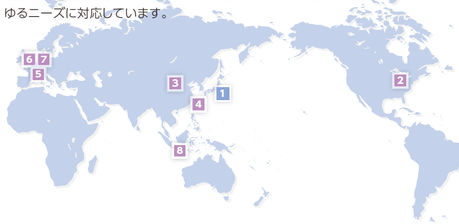
ホームページでもさまざまな情報をご覧いただけます。
http://www.ariakejapan.com/ または アリアケ 検索 でご検索ください。

「世界最適地生産体制」を確立し、世界中の多くの顧客ニーズに対応しています。

当社グループは世界の食文化の発展に寄与するために、創業以来、グローバルエンタープライズとして、日本国内はもとより、世界的な規模で企業活動を展開してきました。

創業以来、世界各国で200億円規模の大型設備投資を行い、今般その投資が一巡し、既に回収期にはいっております。

現在、日本、米国、中国、台湾、フランス、ベルギー、オランダ、インドネシアの、世界8箇所の生産拠点を有する「世界最適地生産体制」の下、世界中の多くの顧客のあらゆるニーズに対応しています。



1 日本 Japan
会社名　アリアケジャパン株式会社
本社所在地　東京都渋谷区
工場所在地　長崎県北松浦郡
設立　1966年6月
資本金　7,095百万円

2 米国 U.S.A.
会社名　ARIAKE U.S.A., Inc.
所在地　米国 バージニア州 ハリソンバーグ市
設立　1985年2月
資本金　18,000千米ドル

3 中国 China
会社名　青島有明食品有限公司
所在地　中国 山東省 青島膠南市
設立　1994年12月
資本金　8,120千米ドル

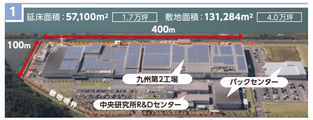
4 台湾 Taiwan
会社名　台湾有明食品股份有限公司
所在地　台湾 屏東市
設立　1985年5月
資本金　250,000千NTドル

5 フランス France
会社名　F. P. Natural Ingredients S.A.S.
所在地　フランス アランソン市
設立　2003年3月
資本金　22,000千ユーロ

6 ベルギー Belgium
会社名　Ariake Europe N.V.
所在地　ベルギー マースメヒレン市
設立　2004年1月
資本金　54,500千ユーロ

7 オランダ Netherlands
会社名　Henningsen Nederland B.V.
所在地　オランダ ワールウェイク市
設立　1984年12月
資本金　359千ユーロ

8 インドネシア Indonesia
会社名　PT. Ariake Europe Indonesia
所在地　インドネシア 西ジャワ州
設立　2016年3月
資本金　2,825千米ドル



アリアケジャパン株式会社 九州工場

ARIAKE U.S.A., Inc.

青島有明食品有限公司 第1工場

青島有明食品有限公司 第2工場

台湾有明食品股份有限公司

F. P. Natural Ingredients S.A.S.

Ariake Europe N.V.

Henningsen Nederland B.V.

PT. Ariake Europe Indonesia

当社グループの事業計画

高品質、安価な商品を安定的に供給できる「世界最適地生産体制」の確立により、当社グループでは、明確な数値目標を示した事業計画を策定しました。

(単位：億円)

		実績		計画		
		平成28年3月期	平成29年3月期	平成30年3月期	平成31年3月期	平成32年3月期
売上高	単体	345	**360**	380	400	420
	連結子会社	144	**153**	166	198	218
	連結調整	△ 25	**△ 25**	△ 25	△ 27	△ 29
	連結	464	**488**	521	572	609
営業利益	単体	67	**75**	79	83	87
	連結子会社	21	**28**	31	39	44
	連結	88	**103**	111	122	131

当社グループの事業戦略

当社グループでは、事業計画に基づき、世界の各地域・国ごとに具体的な事業戦略を策定し、3年後の平成32年3月期の売上高目標値を掲げました。

(単位：億円)

			計画 平成32年3月期※ 売上高目標値
日本	アリアケジャパン株式会社	新たなビジネスモデルへの挑戦	420
米国	ARIAKE U.S.A., Inc.	戦略的営業活動と新規設備投資	72
アジア	青島有明食品有限公司(中国) 台湾有明食品股份有限公司(台湾) PT. Ariake Europe Indonesia(インドネシア)	潜在需要の喚起による販売増 新たな市場での拡販	87
欧州	F. P. Natural Ingredients S.A.S.(フランス) Ariake Europe N.V.(ベルギー) Henningsen Nederland B.V.(オランダ)	3拠点連携による欧州市場の拡販	48
その他			11

※売上高目標値は連結調整前のものです。

インドネシア新工場が完成へ：東南アジア初の生産拠点として「世界8極体制」の本格稼働へ

本年9月、建設中の東南アジア初の生産拠点であるインドネシア工場が完成を予定しており、来年初頭の操業開始により「世界8極体制」が本格稼働します。

インドネシア工場では、チキンスープなどの原料になる調味料を製造し、インドネシア国内だけでなくタイやマレーシアへの輸出も視野に入れており、ハラル認証の取得も予定しています。また、商品ラインナップの拡充を目指して、今までにない新商品の開発にも着手し、幅広い顧客ニーズを捉えていくことを計画しています。

新たな取り組みを通じて、インドネシア現地法人は平成32年3月期に売上高5億円を目指しており、本年1月より稼働している台湾の新工場と合わせて、当社グループの中長期的な目標である連結売上高1,000億円の達成に向けて、貢献度を増していくものと期待しています。

東南アジア初の生産拠点：インドネシア新工場完成予想図

●総投資額：約10億円　●平成29年9月完成予定

高度かつグローバルな品質・衛生管理能力が成長の原動力

昨今、食の安全に対する消費者の関心は高まる一方です。これに対して、当社グループは高度かつグローバルな品質・衛生管理能力を原動力として成長してきました。

具体的には、高品質な製品を確実に製造する能力を有し、プロの料理人が作る味と同様のおいしさを工業的に作り出しています。広大な九州第2工場はコンピュータ制御で無人化・自動化され、高品質な製品を安定的・効率的かつ大量に製造しています。

さらに、品質管理の国際規格ISO9001や、厚生労働省の総合衛生管理製造過程の承認を取得し、HACCP方式の衛生管理手法を導入、世界で最も厳しい米国農務省(USDA)の衛生基準に基づく生産設備を国内外で整備するなど、高度な品質・衛生管理能力を世界の各拠点にも徹底しています。

台湾の新工場では最新設備が稼働しており、建設中のインドネシア新工場でも最新設備を導入し、品質・衛生管理能力の増強に努め、成長を加速させていきます。

九州工場 中央研究所R&Dセンター